

縄文のカゴ・弥生のカゴ

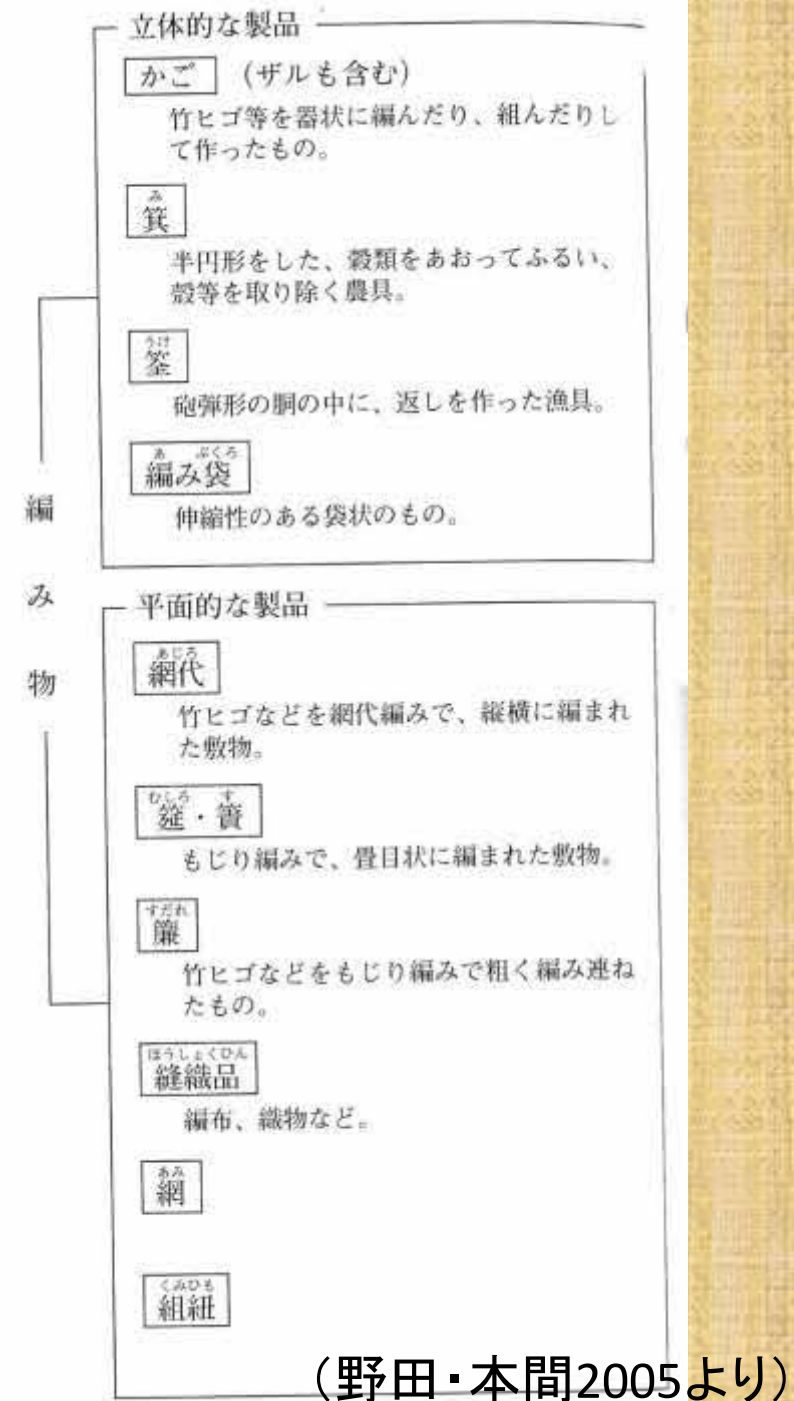
鳥取県埋蔵文化財センター 下江健太

カゴとは

あみぐみ

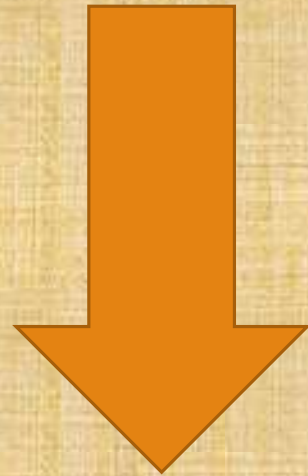
編組製品（編み物）の中で、
立体的な製品で、竹ヒゴ等を器状
に編んだり、組んだりして作った
もの

- ・ 世界中に存在。
- ・ 約1万年前に中東での例あり？
（日本では約8,000年前の例）



考古学と木製品

日本列島の多くが火山活動によってできた土地であるため、酸性土壌である。また地中には菌類や微生物が生存。

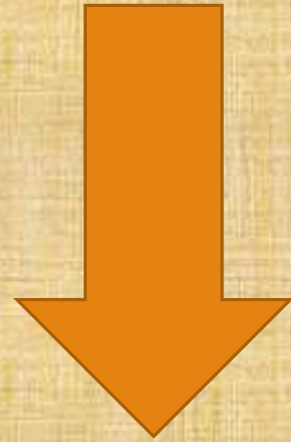


有機質素材（木製品、骨など） は分解され残りにくい！

※有機質素材とは？

…生物由来の炭素原子で構成された物質を含む素材

**そんな日本でも
有機質遺物が見つかる環境が！！**



**地下水が豊富で水位が高い場所
(低湿地や潟湖 (せきこ：ラグーン)
周辺など)**

※分解する菌類や微生物が生育しにくい

日本海沿岸地域

- 潟湖（ラグーン）が点在
- 現在は埋まっている潟湖跡⇒地下水が豊富で水位が高い低湿地

鳥取県

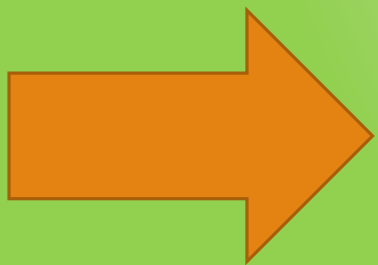
- 1997年 あおや かみじち 青谷上寺地遺跡の発掘調査
(日本有数の有機質遺物の出土量)
- 2008年度からの鳥取西道路建設に伴う発掘調査
(湖山池南岸や青谷平野 80,000点の木器)

縄文のカゴ

たかずみ いでぞえ

高住井手添遺跡の発掘調査

- ・ 2011～2012年度まで発掘調査
- ・ 縄文時代晩期（約2,500年前）の河道内から、編みカゴが13点出土。カゴの素材束も多く出土。

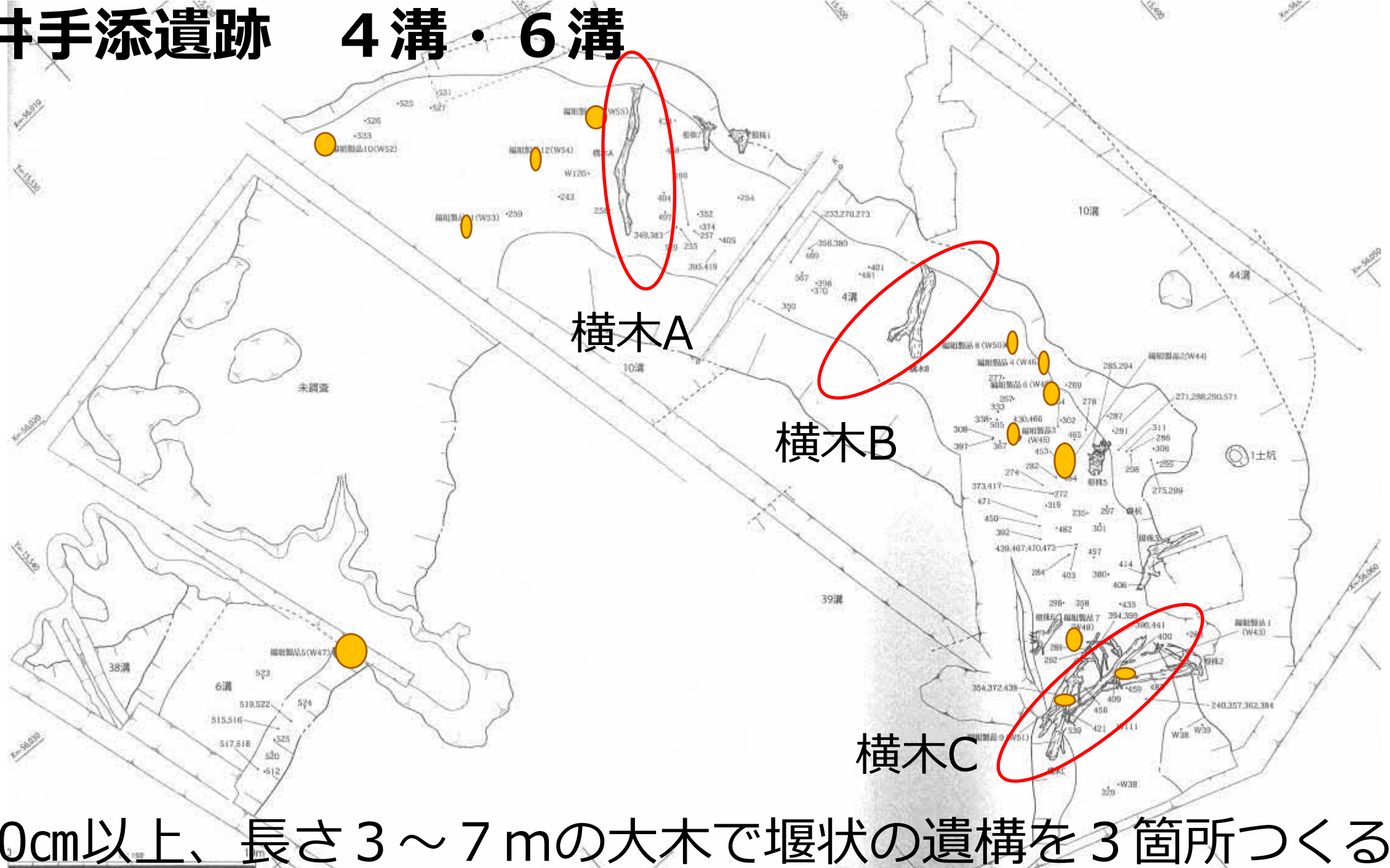


大木を横倒しにして杭で留めて、水流や水量を調節。

カゴの製作場？

高住井手添遺跡

4溝・6溝



横木A

横木B

横木C

直径40cm以上、長さ3～7mの大木で堰状の遺構を3箇所つくる



横木C



横木B



カゴ(ヒノキ+テイカカズラ)







編み物の素材(ヒノキ)



特 徴

- ・ 広口で大型のタイプと縦に長い^{ふかばち}深鉢形の2タイプ
- ・ 縦に長い深鉢形のタイプの編目のすき間が広い
- ・ ヨコ材はモジリ（ねじり）編みが多い。
- ・ 素材はいずれもヒノキのヒゴ状の割り裂き材
- ・ 大型タイプの胴部には、補強と装飾を目的とした、
テイカカズラのツルを使っている。

弥生のカゴ

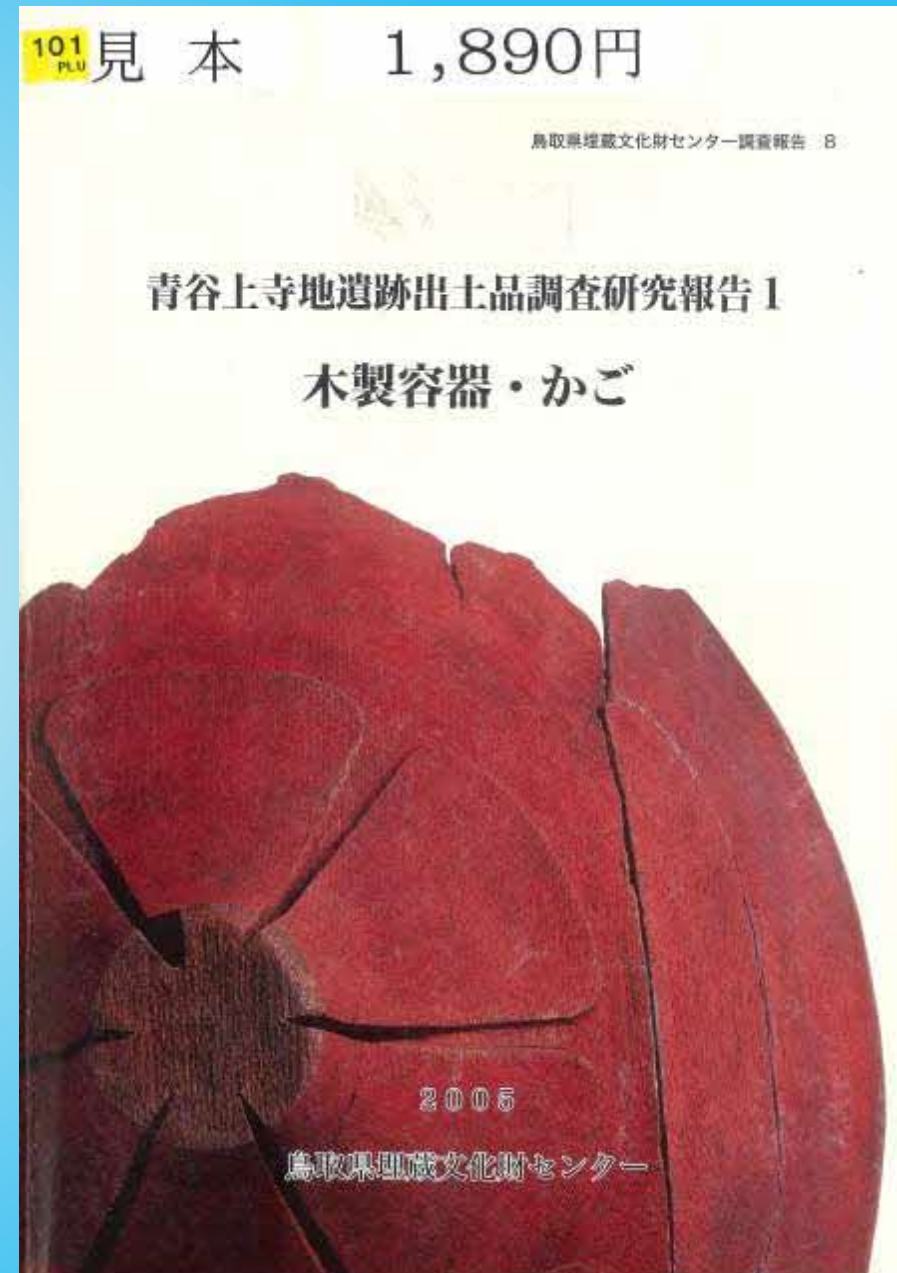
青谷上寺地遺跡の発掘調査

- 1998～2001年度まで発掘調査
- 弥生時代中・後期（約2,200～1,900年前）の低湿地遺跡で豊富な遺物が出土。
別名「地下の弥生博物館」
- カゴが59点出土。
※釜（うけ）も出土。

青谷上寺地遺跡出土カゴ類の研究

野田真弓・本間一恵 2005「第3章
青谷上寺地遺跡出土のかご」野田真
弓・茶谷満編『鳥取県埋蔵文化財セン
ター調査報告8 青谷上寺地遺跡出土
品調査研究報告1 木製容器・かご』
鳥取県埋蔵文化財センター

- ・ 出土したカゴについて詳細な観察
を行い、全国で出土した類例と比
較検討を行う。また復元品も製作。



編み方

底部

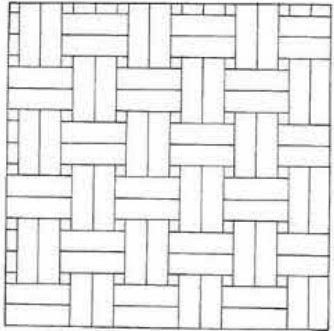
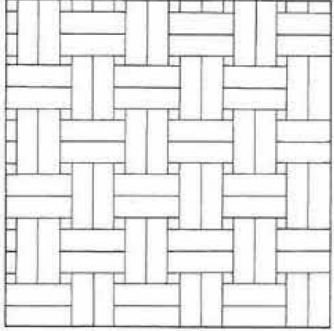


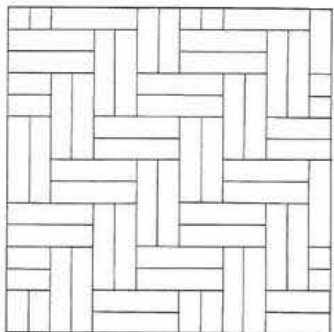
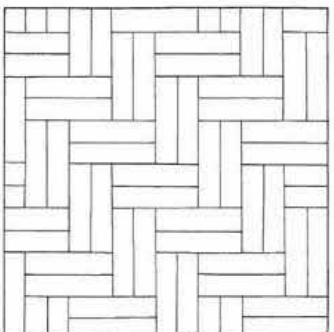
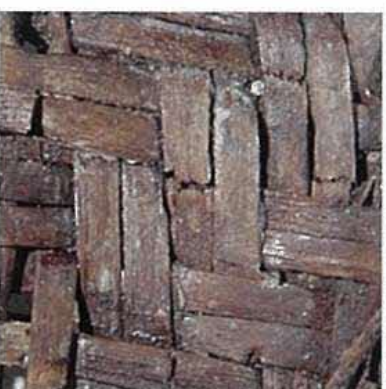

: 2種類

体部

: 13種類

縁仕舞

: 2種類

部位	記号	模式図		写真	
		表	裏	表	裏
底部	i				
	2本1単位の1本超1本潜1本送				
底部	ii				
	2本1単位の2本超2本潜1本送				

編み方

底部

: 2種類

体部

: 13種類

縁仕舞

: 2種類

部	帯	a			
			ヨコ添えもじり編み (左燃り)		
	a'				
		ヨコ添えもじり編み (右燃り)			
	a1				
		巻き付け材3本によるヨコ添えもじり編み			
	A				
		ヨコ添えもじり編み (左燃り)			

(野田・本間2005より)

編み方

底部

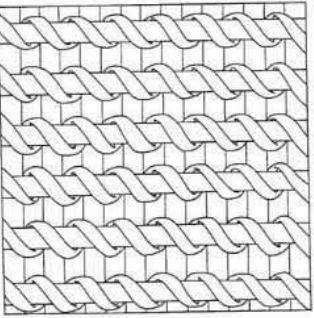
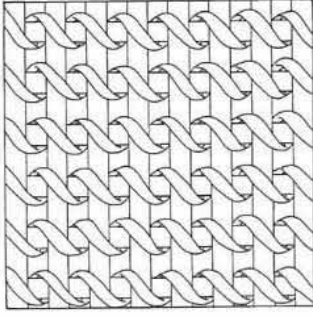


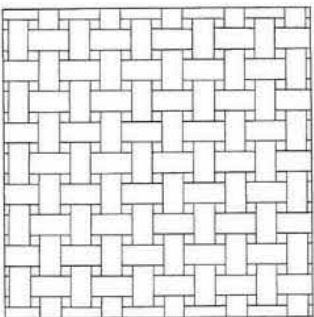
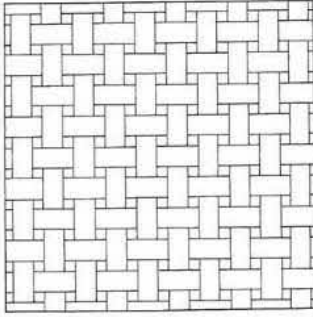
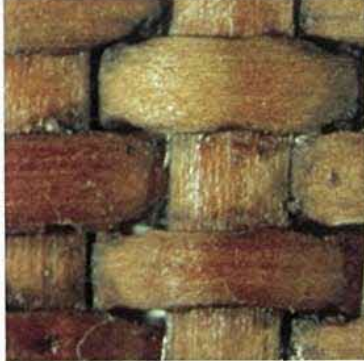

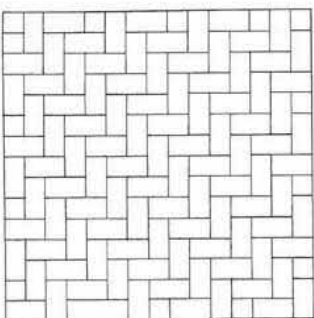
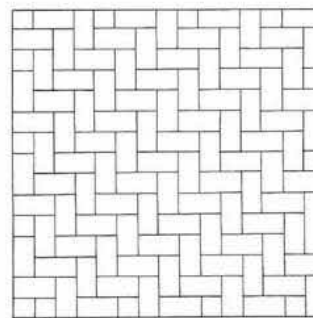


: 2種類

体部

: 13種類

縁仕舞

: 2種類

部位	記号	模式図		写真	
		表	裏	表	裏
体	A'				
	ヨコ添えもじり編み (右撚り)				
	B				
1本超1本潜1本送					
C					
2本超2本潜1本送 (左上がり)					

(野田・本間2005より)

編み方

底部

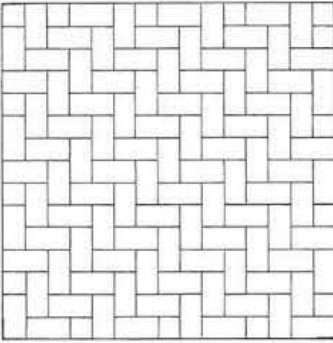
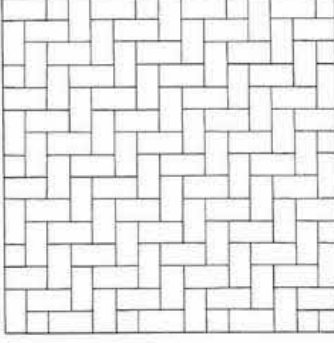


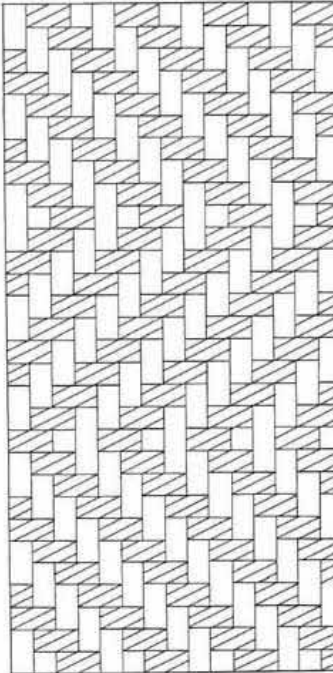
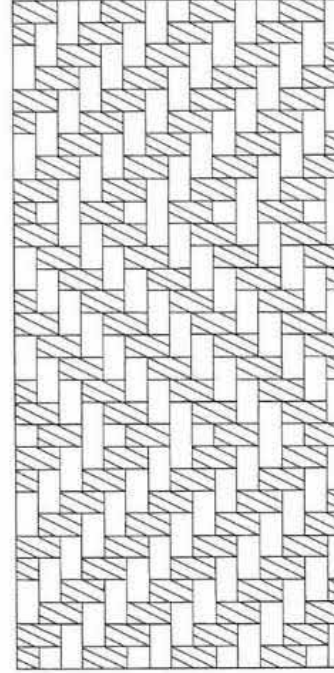


: 2種類

体部

: 13種類

縁仕舞

: 2種類

部	C'				
	2本超2本潜1本送（右上がり）				
部	D				
	木目ござ目編み				



(野田・本間2005より)



(野田・本間2005より)



(野田・本間2005より)



(野田・本間2005より)

カゴ復元（素材づくり）



マタタビの分割



ヒゴの調整

マタタビ表皮の除去



（野田・本間2005より）

特 徴

- 大型と小型に分かれ、さらに底部正方形、鉢形を呈し、断面楕円形のものが多い。
- 素材はいずれもマタタビ属のシート状にしたものを使用し、編目のすき間はない。
- 補強のための帯部をもつが、同じマタタビ属を使用。



**北陸地域との共通性が高い
(木製容器も同様)。**

- 縄文時代と比べて、編み方のパターンが豊富。

- **ヨコ添えもじり編み**が特徴的にある。

- 縄文時代の縦に長い深鉢タイプは消滅？

(野田・本間2005より)

形	型	底縁部	体部下部	中央部	体部上部	口縁部	編み図	点数
I	1型	なし	A	なし	A	a		1
	2型	なし	A'	なし	A'	a'	(1)	1
	5 or 10型	不明	A	a	A	a		1
II	2型	なし	C, C'	なし	C, C'			2
	3型	なし	C	なし	B			6
		なし	D	なし	B		(1)	1
	5型	なし	D, B	a	B		a	1
		a	B		a	B		
	10型	a	B, a, B	a	B			(2)
a		B, a, B	a	B				2
12型	a1	C		a1	B	a1		1
13型	a	C, B	a	B		a		2

全国規模での研究

縄文のカゴと弥生のカゴ の比較研究

佐々木由香2015「縄文・弥生
時代の編組製品製作技法の特徴
と時代差」『シンポジウム 縄
文・弥生時代の編組製品研究の
新展開－植物資源利用・技法・
用途－ 要旨集』あみもの研究
会

シンポジウム

縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開

－植物資源利用・技法・用途－

要旨集



2015年11月22日（日）明治大学お茶の水キャンパスリバティタワー
主 催：明治大学日本先史文化研究所、科学研究費補助金「日本の縄文・弥生時代遺跡
出土編組・織物製品等素材の考古植物学的研究」（代表 鈴木三典）研究グループ

素材について

縄文時代

(編み物)

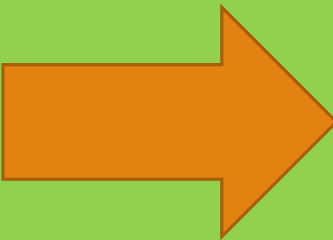
- ・ 各地域によって素材が異なる。
- ・ 鳥取県東部～北陸地域
= 針葉樹とツル植物多用地域

さらに細かくみると…

北陸地域…**ヒノキ**、**マタタビ属**、ツヅラフジ

鳥取東部…**ヒノキ**、スギ、**テイカカズラ**

九州…**テイカカズラ**、ウドカズラ、イヌビワ

 鳥取東部は北陸地域と九州の中間的？
マタタビ属は既に北陸地域で使用。

素材について

弥生時代

(編み物)

関東～近畿～山陰地方でほぼ同じような素材
(タケ亜科&ツル植物多用)。

北陸～鳥取県

マタタビ属多い

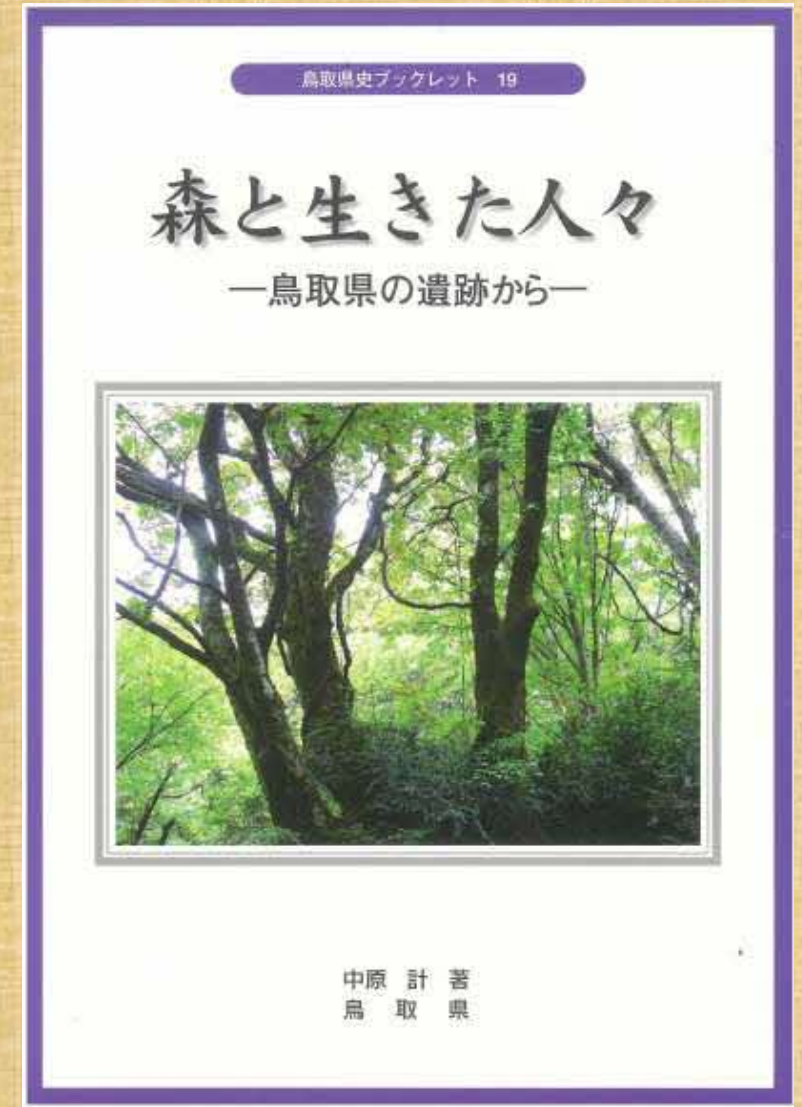
カゴ素材は何故変化したのか？

○縄文時代から弥生時代への変化

- ・ 狩猟採集から農耕へ
- ・ 金属器の出現
- ・ 中国大陸や朝鮮半島との交流
- ・ 気候変化？

中原計 2018『森と生きた人々－鳥取県の遺跡から－ 鳥取県史ブックレット19』鳥取県

遺跡から出土した木材の樹種同定
分析から、縄文時代以降の鳥取県の
樹種資源の利用について概観



頒布価格 500円

樹種同定について

- 製品 → 製作者の選択性
- 自然木や丸木杭 → 周辺環境の復元



顕微鏡写真



スギ



アカガシ亜属

高住井手添遺跡の杭の樹種

縄文時代晩期…カエデ属、ヤブツバキ、クリ、ヤマグワ、ムクロジ

落葉広葉樹の利用割合が多く、常緑広葉樹は少ない。

現在よりもやや寒冷化した気候

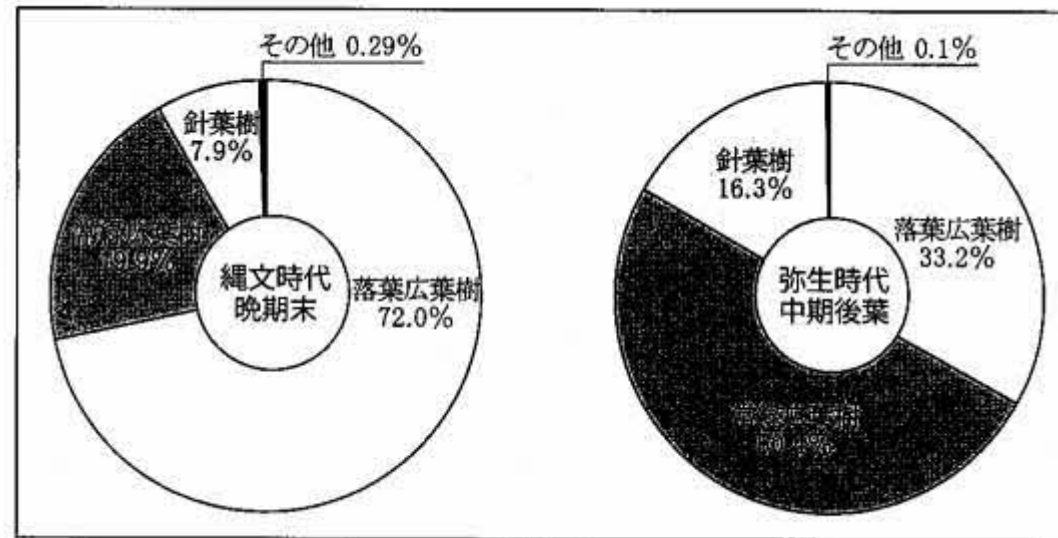
弥生時代中期…シイノキ属、サカキ、ヤブツバキ、クリ、アカガシ亜属、ヤナギ属、タブノキ

常緑広葉樹の利用割合が多い。

現在とほぼ同じような気候。

縄文時代晩期は寒冷化しており、その後、弥生時代を通じて温暖化していく。

高住井手添遺跡の樹種構成



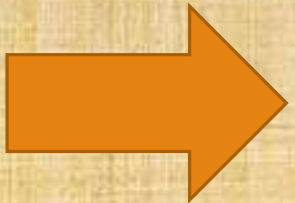
縄文晩期

弥生中期

(中原2018)より

ヒノキについて

- ・ 針葉樹で、主に**建築材**に使用（『古事記』の記載）
- ・ 鳥取県では、**縄文時代はカゴ**、**弥生時代は建築材**
（**青谷上寺地遺跡**）**にほぼ限定**

 縄文時代から弥生時代にかけて、主な対象は異なるが、使用され続けている。

（**気候変化とは関係ない？文化的・社会的要因か？**）

ケヤキ



マタタビ



(例) 農具と樹種

○弥生時代の農具（鍬・鋤）

- ・ 全国ほぼ全てアカガシ亜属の柾目材を使用
※非常に硬質の材。
- ・ ミカン割り（放射状分割）をした柾目の板材から、鍬先を連続して製作。

 全国的に画一化したシステムチックな製法

カゴの復元

○鳥取西道路出土木製品調査研究事業

- ・鳥取西道路関連の発掘調査で出土した、コンテナ約5,000箱（約80,000点）分の木製品の調査研究・保存処理・公開を実施。
- ・研究の一環として、高住井手添遺跡出土カゴの復元を目指し、本間一恵氏に協力依頼。





本間一恵氏の
調査指導
(昨年12月)



今後の展望

- 高住井手添遺跡出土カゴ類の再検討
（出土状況、編目のすき間、本間氏の指摘）
- 技術的な系譜について



各地の出土資料との比較だけでなく、
復元品の製作を通して、明らかにし
ていく。